

# KYU-UEDAKEJUTAKU

八尾市指定文化財 安中新田会所跡  
旧植田家住宅 だより

## 特集

開館一周年記念講演

### 甚兵衛と大和川

～付け替えがもたらしたものの～

「むかしあそび」

- ・チャンバラ教室
- ・むかし遊びの日

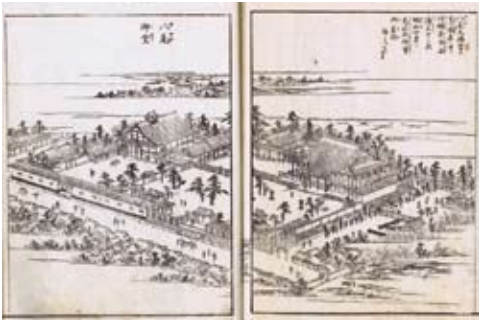
名所図会にみる八尾

植田家と「大坂画壇」

Volume **05**

2010年7月発行





(表紙写真・上)

#### 『河内名所図会』より「八尾御堂(大信寺)」

正式名称は真宗大谷派八尾別院大信寺。八尾御坊とも呼ばれる。慶長12年(1607)、本願寺の東西分立に端を発し、久宝寺の寺内町を支配していた安井氏と森本行誓ら民衆の間に対立が起こる。徳川家康の計らいにより、森本行誓らは東本願寺第十二世住職の教如に寄進された八尾荘(現在の八尾市中心部)に移住し、教如と共に大信寺を建て、寺内町を形成した。



(表紙写真・下)

#### 『河内名所図会』より「八尾の市」

常光寺(八尾市本町)門前で開かれた市の様子が写実的に描かれている。店先には傘や釜、器類のほか、海産物なども並び、門前には人形芝居のやぐらが組まれ、賑やかな様子が伝わってくる。

『河内名所図会』 享和元年(1801)刊  
秋里籬島・著 丹羽桃溪・画

\*表紙の『河内名所図会』には、彩色を施してあります  
(原本はモノクロ)

4

**特集** 開館 1 周年記念講演

「甚兵衛と大和川～付け替えがもたらしたものの～」

中 九兵衛 氏 (大和川歴史研究家)

6

チャンバラ教室

7

むかし遊びの日

8

名所図会にみる八尾

宮元 正博 (当施設学芸員) 講座

10

植田家と「大坂画壇」

11

親子で歩くうえまつぶ

12

なにわの伝統野菜栽培日記

13

植松のまち・ひと

14

トピックス①駅前花壇②おひなさん寄贈

15

今後のお知らせ



2010.4.24

## 講演会



中九兵衛氏 (大和川歴史研究家)



## 開館1周年記念講演

# 「甚兵衛と大和川」

～付け替えがもたらしたものの～



安中新田会所跡旧植田家住宅は、二〇一〇年五月六日(木)に開館一周年を迎えました。これを記念して、四月二十四日(土)、旧植田家住宅の座敷では、開館一周年記念講演「甚兵衛と大和川」付け替えがもたらしたものの」と題する講演会が開催されました。

講師は、昨年度も大和川付け替えに関するお話しをしていただいた中九兵衛さんです。ご存知の方も多いかと思いますが、中さんのご先祖様は大和川付け替えに一生をささげた中甚兵衛で、九兵衛さんはその十代目にあたる方なのです。

昨年は大和川付け替えにいたる経緯や、その間の甚兵衛の活動などを中心にお話していただきましたが、今年は付け替え後の大和川とその周辺地域では何があったのかということを取り上げていただきました。このあたりのことは、なかなか聞く機会が少ないように思うのですが、さて、どのようなことがあったのでしょうか。

まず、大和川が付け替えられた後、本当に水害がなくなつたのかというと、実はそうではなかったそうです。新川の北側の堤防が高く作られたため、たしかに大阪市中に水害は少なくなつたものの、新川が運ぶ土砂によって、河口付近など、これまでとは違う場所です。洪水が起こるようになったということでは

た。逆に、水不足を引き起こした地域もあります。また、住吉区と堺市の間にある遠里小野、松原と八尾の間にある若林、東住吉区の矢田、平野区の長吉川辺や瓜破南などは、新川によって地域が分断され、現在では市、区などの行政区分すら違っている地域もあります。

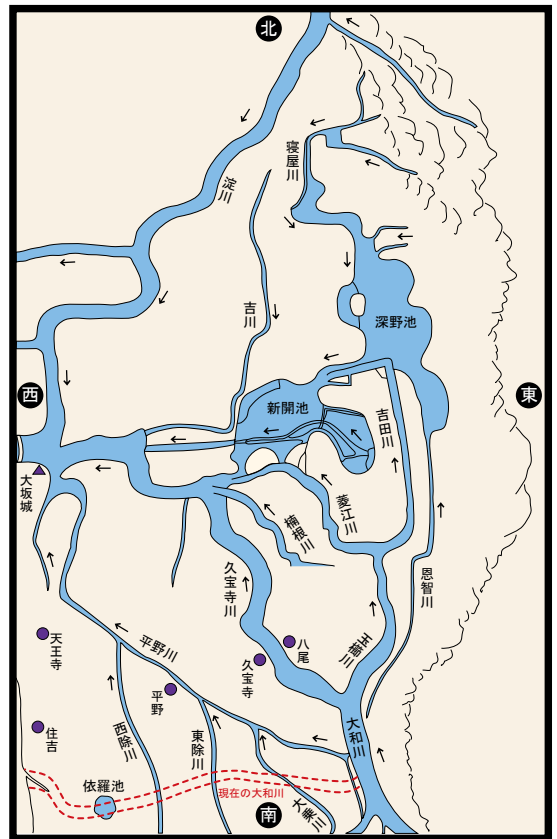


高野街道、奈良街道、熊野街道、紀州街道といった街道が分断されたことも大きな変化と言えます。新川には、紀州街道に大和橋がかけられたのが唯一の公儀橋（※）で、その他は私設の橋しかなかったそうです。そして、当然のことですが、付け替えは水運にも影響を与えたようです。分断された川はもちろん、残った川も水量が激減し、舟が通れなくなりました。そこで、新たに十三間堀川などが掘られ、そこを剣先舟が往来するようになりました。このように、付け替えによって交通の様相も様変わりしました。

しかし、もっとも大きな変化を与えたのは、やはり新田開発ではないでしょうか。旧大和川（現長瀬川・玉串川）の川筋に新田が開発されたことはいまでもありませんが、東除川、西除川、大乗川、依羅池（よさみいけ）のあたりや新川の河口付近でもさかんに新田開発が行なわれました。四方を海に囲まれた日本では、新田開発は国土を増やす絶好の機会だったのです。

このように、大和川の付け替えは様々な形で大坂に影響を与えました。特に、近世後期から近代にかけての大坂（大阪）の景色（景観といってもいいかもしれません）は、大和川付け替えによってつくられたといっても過言ではないでしょう。

※公儀橋  
江戸幕府の経費で架けられた橋。江戸では御入用橋と呼ばれることが多い



付け替え以前の大和川水系

地域のふれあい昔あそび

# チャンバラ 教室



五月二三日(日)、  
澁川神社で毎年行  
なわれる「地域の  
ふれあい昔あそび」  
が雨のため延期と  
なった。JR八尾  
駅前商業協同組合  
主催の、昔遊びが  
体験できるこのイ  
ベントは、今年で  
第七回目だった。

しかしながら旧植田家住宅では、去年と同  
様「チャンバラ教室」が行なわれた。楽しく  
分かりやすいと大好評だった昨年に続き、今  
年も先生方に来てもらった。

外はあいにくの雨で会場は旧植田家住宅の  
「土間」。しかし、それがなんとも最高の舞台  
となった！江戸の香り漂う植田家の主屋が、  
映画村顔負けの時代劇のセットに早変わり。  
江戸時代のお屋敷で小さな剣士たちが、剣術  
指南を受けることになる。

「まずは自分の大切な刀を作りましよう」  
と、先生から新聞紙を手渡される。先生が新  
聞紙をくるくると巻いていくと、あつという  
間に見事な刀のできあがり。子どもたちも見  
よう見まねで自分たちの刀を作っていく。「こ  
れは新聞紙ではなく立派な刀です。むやみや

たらに人を斬ったりしてはいけませんよ」と、  
ここで剣術の心得を伝授される。

子どもたちはそれぞれ自分の刀を丁寧に腰  
に携え、少々緊張気味に稽古が始まった。「刀  
の持ち方」から「相手の刀を飛び越えて避け  
る」などの高等な技まで教えてもらい、小さ  
な侍たちは、一生懸命に覚えながらそれらを  
自分の技にしていく。

「それでは斬られ  
方も覚えましよう」と  
先生。子どもたち  
は一人一人、声を出  
しながら順番に斬ら  
れる演技をしてい  
く。最初はみんな照  
れていたが、徐々に  
面白くなってきたの  
か、自分なりのアド



リブを加えながら迫真の演技で「うわー、や  
られたー！」と叫びながら斬られていく。こ  
れには先生からも大きな拍手が出る。

一通り稽古が終わると、「せっかくなので、  
このお屋敷を使ってみんな時代劇をしま  
しよう」と先生から提案が。「悪者たちに襲  
われている村人を正義の味方が助ける」とい  
う即興の物語を全員ですることになった。こ  
れまで教わった技を組み合わせた様ざまなパ

ターンの殺陣を打ち合わせ、不安と期待の  
中で本番を迎える。

時は元禄、雨の植田家。悪者の手下(男  
の子二人)が村人(私)を脅す。「おらー！さつ  
さと貸した金を返しな！」と、役に入り込  
み迫真の演技の子どもたち。「誰か！助けて  
ください！」と私も負けじと演技。

すると、「待ちなさい！私たちが相手よ」と、正義の味方(女の子二人)の登場。教わつ  
たいろんな技を思い出しながら、悪者相手  
に戦う。悪者たちはあつという間に斬られ  
て退散。斬られ方も最高。そこへ悪者のボ  
ス(女の子)が登場。かなり手強い相手だ。  
ヒロイン二人とボスの対決は、迫力満点。

三人共、難しい殺陣をこなしながら戦い、  
見事村人を助けたヒロインは、照れながら  
も決めのポーズを取って、大きな拍手を受  
けた。みんな満足気な表情で、先生にお礼  
を言って免許皆伝の  
書を受け取ると、そ  
の免許皆伝書を手に、  
先生たちと記念撮影。  
小さな侍たちは、来  
年もまた楽しみにし  
てくれている。





毎月第三日曜日は、

# むかし遊びの日

旧植田家住宅では、毎月第三日曜日を「むかし遊びの日」にしています。旧植田家とい

う格好の遊び場を使って、子どもたちにもっと昔の遊びを知ってもらおうと、今年の五月から始まりました。スタッフは日によって変わりますが、だいたい二名で行なっています。遊びの内容はけん玉やコマ回し、そしてスタッフによる紙芝居の上演です。けん玉は私が経験者なので、基礎的な技を教えたり、けん玉リレーなど、みんなで参加できてより楽しい競技の開発にも日々取り組んでいます。

むかし遊びとは言うものの、子どもたちは学校でむかし遊びの授業があるようで、「○○君はけん玉得意やでー」「俺、三分コマ回せんねん！」など、今の子どもたちのほうが、私が小学生だった頃よりもずっとなじみがあったことが意外で驚きました。

課題として、けん玉ができない子どもにスタッフはどうやっ



て教えればいだろうと考えるのですが、こまかく教えるまでもなく、友だちに教わったり、ちよつとコツを教えると、子どもたちは飲み込みが早くてあつという間にお皿に乗せてしまい、「みてー！大皿のつたー！」とはしゃいで私に見せにきてくれます。そんな子どもたちを見て、私も負けられないように大技を完成させようと日々努力しています。

紙芝居は、お話や絵だけでなく、木杵もすべてスタッフの手作りです。まだ一作品しかないのですが、これが好評で、これからも増やしていこうと思っています。

ボランティアを通して、子どもたちとの接し方にはまだ馴れないのですが、顔なじみの子ができて「あかりちゃんーん！」と声を掛けてくれるのはとてもうれしいので、これから

からももっといろいろな子どもたちと仲良くなりたいです。むかし遊びを通じて地域の大人と子どもたちがふれあうということは、とても温かくて大切だと思いました。

ボランティア・スタッフ

萬田 明花里

## ふれあいとぬくもりの商店街



JR八尾駅前商業協同組合

6・27 講座

# 「名所図会とみる八尾」

## 大和川付替え関連展示十名所図会

六月二日(水)から七月十二日(月)までの期間、旧植田家住宅の展示室では「大和川付替え関連展示」(植田家だより第三号にて「基本展示」として紹介)が再びスタートしました。この展示は、これまでと同じく「長瀬川・玉串川沿いの今とむかし」がテーマで、長瀬川と玉串川がかつて旧大和川の本流だったころの流域を示した大きな地図が展示されているのが特徴です。また地図には、現在とすこし昔の新田地域の様子がわかる写真も多く載せられ、自分たちの住んでいるお馴染みの場所でも、昔の姿を知ることによって意外な発見があるかもしれません。



その中から八尾と周辺地域に関する記事がいくつか解説付きでパネル展示されており、八尾の史跡などを江戸時代の視点から見ることが出来ます。そして今回は『河内名所図会』をはじめとした「名所図会」各種が実際に展示されており、そこからさらに歴史にふれることが出来ました。

年間を通して何度か開催される大和川付替え関連展示では、地域の人にとってなじみのある大和川、長瀬川、玉串川のことだけでなく展示されますが、地域の再発見につながることを期待しています。

### 講座「名所図会にみる八尾」

この展示に関連して、六月二七日(日)旧植田家住宅の座敷では、学芸員の宮元正博による講座「名所図会にみる八尾」が行なわれました。梅雨時期の休日、天候にも恵まれ大勢の人が参加されていました。

「名所図会」とは、江戸時代に出版された本で、各地域の史跡、名勝、名物などにつ

いて、緻密な挿絵とともに解説されたものです。今でいう観光ガイドブックのような性格を持ち、当時の人はそれを見て楽しんだり、持って歩いたり、娯楽として使っていたそうです。主な「名所図会」には『河内名所図会』、『摂津名所図会』、『大和名所図会』などがありますが、その中でも、八尾や周辺の地域のこと書かれている『河内名所図会』から、特に八尾に関する記事が今回紹介されました。



講座は、「名所図会とは？」という話から始まり、「名所図会」の挿絵がどれだけ正確に描かれているのかを検証するために、それぞれの名所の現在の様子(実際に訪れて撮った写真と航空写真)をスライドで紹介し、比較するという試みもありました。これによって当時と変わらないもの、全く変わってしまったものなどが鮮明に見て取ることが出来ました。

今回紹介されたのは、教興寺、河内木綿、業平朝臣河内通ひ、高安千塚、久宝寺村御堂頭証寺、下太子勝軍寺、大信寺、八尾地藏尊常光寺、八尾市(やおのいち)の各記事で、どれも八尾に縁の深いところばかりでした。

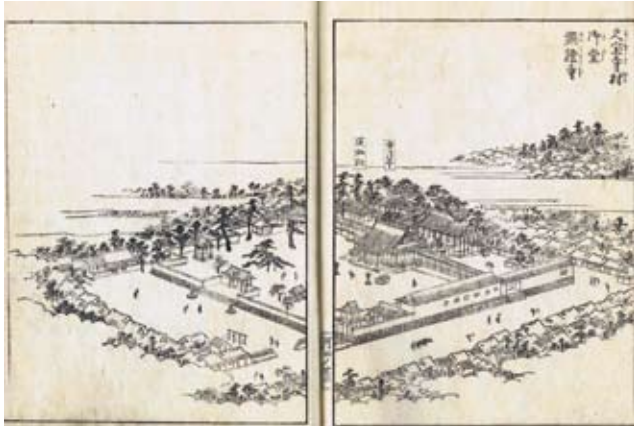


とくに教興寺のように池にかかる橋の位置が現在と少し違っていたり、「図会」に描かれたままの姿の顕証寺の様子や、倒壊のためにコンクリート造になって敷地の面積も変化した大信寺など、実際の風景をとおして、「名所図会」の正確さや面白さを知ることができました。

学芸員の宮元は『河内名所図会』を見ながら、八尾の町を歩いてみることで、昔から現在につながる歴史などがわかり、よりいっそう郷土愛が生まれるのではないかと講座を締めくくりました。なお『河内名所図会』などの本は、新しく印刷されたものが図書館に行けばあるそうですので、名所図会を片手に八尾の町を散策してみたいかがでしょうか。



スライドを見せながら解説する学芸員



『河内名所図会』より久宝寺村御堂顕証寺



「名所図会」に描かれた顕証寺の窓



「八尾の市」(表紙)に描かれている常光寺門前の様子

## 【はじめに】

旧植田家住宅では、一〇月から企画展「植田家と大坂画壇」の開催を予定しています。京都画壇や江戸画壇と比べると、なじみの薄い大坂画壇ですが、人的交流を含めた大坂の文化を語る上では非常に重要な要素のひとつであるといえます。

## 【大坂画壇のはじまり】

そのはじまりは近世初期にまでさかのぼると考えられています。江戸時代に入り、大坂が金融の中心として発展しはじめる、その経済力を背景に、独自の文化を形成し始めます。中でも、重要な位置を占めたのは出版ではないでしょうか。井原西鶴の『好色一代男』以降、数多

くの本が出された「浮世草子」というジャンルの本では挿絵が重要になります。初期大坂画壇の作家はこれらの絵を手掛けていることが多く、重要な活躍の場であったと思われる。その後、大岡春卜（おおおか・しゅんぼく）や吉村周山（よしむら・しゅうざん）などは、流派といえるような組織を形成しはじめ、安定した支持者を得ていきます。

## 【大坂画壇の展開】

画壇の展開が多様化していくと、狩野派、南画（文人画）系、写生画、風俗画といったように、さまざまに細分化されていきます。粉本主義（\*1）を採った狩野派に対し、当世美人画で注目された月岡雪鼎（つきおか・せつてい）などは狩野派からの脱却をはかり、大坂町人の趣向にあった作品を作出していきます。森派を形成した森狙仙（もり・そせん）や森

# 植田家と

# 「大坂画壇」

周峰（もり・しゅうほう）らは、独自の写生画風の様式を確立していきます。大坂画壇を語る際を中心となることが多い木村兼葭堂（きむら・けんかどう）は、池大雅に教えを受けた南画系の作家で、大坂画壇の発展に大きな影響を与えたと考えられる人物です。

## 【植田家と大坂画壇】

植田家に伝わった書画類の中には、この大

坂画壇に連なる作家のものが多く含まれています。これまで、大坂画壇と言えば、大坂三郷（\*2）の中で語られることがほとんどでした。確かに、初期の大坂画壇作品は、富裕層の多く居住した三郷内で受け入れられたと思われませんが、それは次第に知識人・文化人の交流の中で、周辺地域にも伝播したと考えるのが自然ではないでしょうか。植田家の歴史によって蒐集されたこれらの作品群は、彼らの文化的素養の高さを示すとともに、どのような層の人びとが大坂画壇を支持していたのかということとを考察する上でも、貴重な資料となっていくことでしょう。

\*1 粉本（お手本）を模写することで先人の技術を学ぶ手法。

\*2 江戸時代の大坂市街地には本町通りを境に北組と南組がつけられた。その後、大川右岸（天満宮付近）が北組から分かれ、天満組となった。この地域を総称して大坂三郷と呼ぶ。

・展示「植田家と大坂画壇」

一〇月一日（金）～一二月二九日（月）

・講演会 一〇月一七日（日）









### 【前途多難?】

前回書いた「開墾」も無事終え、今では畑に植えられている勝間南京(こつまなんきん)、毛馬きゅうり、玉造黒門越瓜(くるもんしろうり)が小さな実をつけ始めている。天候不順の為か、少々発育は遅れ気味ではあるものの、順調に緑の葉を茂らせている。また、プランターなどでは、河内木綿や吹田慈姑(くわい)も元気に育っている。

しかし、今年は害虫(特にナメクジ)の被害が多く、新芽が出て、翌朝には食べられるという状態が続いた。前もって害虫対策として、子どもたちの手も借り、コンパニオン・プランツ(※)としてネギを同時に植えていたのだが、ナメクジにはまったく効果がなかった様子。結局、駆除剤(トレイに入れて仕掛けておくもの)を使用したところ、多少ではあるが被害は防げるようになった。

また、年末に予定している「もちつき大会」用の「きな粉」を自家製にしようと、八尾の特産品でもある枝豆も今年は育てている。

※コンパニオン・プランツ(共存作物、共栄作物)

植物同士がお互いの成長を助ける植物のこと

## なにわの伝統野菜 栽培日記

### 【農作業の先輩】

野菜を育てることに關しては、全くの素人であるため、農作業の先輩である当施設の学芸員の指導のもと、日々汗をかく。

他の野菜は、ハチなどの昆虫が手助けしてくれるのに対し、勝間南京は雌花が咲くと、朝の早い時間にその日に咲いた雄花のおしべと雌花のめしべを軽くつけ、人工授粉する必要がある。テキストを見ながら試みたが、うまく授粉できなかった。どうかは今の時点ではよくわからない。来月あたり立派な「坊ちゃんたち」ができるのを楽しみに、この梅雨時期の手入れに精を出すことにしよう。

《ウリを使った簡単レシピ》

#### 瓜と豚肉のハチミツ煮

◎材料(2人分)

・豚バラ 150g ・瓜 1本 ・しょう油 大3  
・ハチミツ 大2 ・だし汁 300ml ・サラダ油 少々  
※ミリンの代わりにハチミツを使ってコクとうまみをプラス♪

- ①瓜の種と皮を除き、豚肉とウリを適当な大きさに切る。
- ②ナベに油をひき、豚肉を炒め、色が変わってきたら瓜をいれ、一緒に炒める。
- ③だし汁をいれ、沸騰してきたら中火にし、しょう油とハチミツをいれ、やわらかくなるまで煮る。



# 植松のまち・ひと

第一回

八尾の玄関口〜JR八尾駅〜

このコーナーで

は毎回、植松に関する場所やひとを訪ねて、その魅力を探ります。今回は第一回目として、「八尾の玄関口」でもあ



浦木資夫さん

るレトロな駅舎のJR八尾駅を訪ね、駅長さんにお話を伺いました。

朝のラッシュが終わり、なお活気に満ちたJR八尾駅の職場に突然邪魔させて頂いた。対応してくださいだったのは当直駅長の浦木資夫さん（写真）。早速、植松の印象についてお聞きした。

「古いまち並みが今でも残っているのが好いですね」と浦木さん。「JR八尾駅は北口

## 「古いまち並み、今でも残っているのが好いですね」

と南口では趣が大きく違います。北側は工場の名残があつて、古いホームを挟んで、南側には古民家などの古いまち並みがあります。昔の写真などを見ても、その印象はほとんど変わりませんね。

丁寧な質問に答えてくださり「都市開発などで昔の風景が失われていくのは寂しい。後世に伝えられる場所をぜひとも残して欲しい」。あと歴史と同時に技術継承も必要ですね」と、貴重なご意見も頂戴した。取材の後、撮影にも快く応じて頂き、このまちのひとのぬくもりにふれることができた。

今回取材を通して「変わらぬものの良さ」を改めて実感しました。皆様もぜひ一度この「古き良きまち並み」を訪ねてみてください。

# マンジークン

安富士 暁



※お忙しい中、取材にご協力いただき、有難うございました。

おいしいお茶は心を豊かにしてくれます。

暮らしのお茶からギフトまで...

☎ 0120-19-1184

店主のおすすめ

深蒸し煎茶	清緑	200g
深蒸し煎茶	芳水	100g/200g
季節の味わい	新茶	100g

おいしいお茶は専門店です

## 龍華茶舗

〒581-0083 八尾市永畑町2丁目1-1 Tel.072-993-5673/Fax.072-923-5828



① J R 八尾駅前花壇

旧植田家住宅の最寄り駅、J R 八尾駅南口前には花壇があり、季節ごとの花々が利用者の目を楽しませている。



河内木綿の苗を植えている様子

J R 八尾駅前商業協同組合が中心となり、「植松のまちづくりを考える会」やJ R、市の土地整備、八尾土木の職員の方がたの協力のもと、初夏に河内木綿の植え付けをした。

河内木綿は昨年到现在二年目。昨年は旧植田家に来た子どもたちと共に何度か収穫作業をし、今後の体験学習用に約2kgの実綿を頂いた。今年の苗はその種から育てたもので、駅前花壇だけでなく、旧植田家の庭や商店街および周辺住民の方がた、龍華コミセン、市役所西館など、関係者たちの手を経て、それぞれの場所にも広がっていった。

これから成長し、夏には可憐な黄色い花が咲き、九月頃には次々と白い綿が吹き始めるだろう。駅前の小さな花壇から始まった河内木綿作

りが、人から人の手を経て広がったように、人とのつながりも広がっている。

② おひなさん寄贈！

『旧植田家住宅だより』前号(第四号)掲載記事「おひなさんの歴史」で紹介した「おひなさん募集のお知らせ」を受け、先日、旧植田家住宅に寄贈したいとの申し出があった。

今回ご連絡くださったのは当施設のご近所にお住まいの方で、ご家族の同意も得たという雛人形を早速見せていただいた。「せっかくあるのに出さずに眠らせておくのはもったいない。有効活用してほしい」という雛人形は七段飾りの非常に豪華なもの。スタッフは一点ずつ状態を確認した。おひなさんは、手続きを済ませた後、来年から飾られる予定。

なお、今回の募集は特別なものだが、旧植田家住宅では、昔の植松を知る写真、資料および情報提供を受け付けている。



寄贈されたおひなさん

ブックカバー  
文庫本(17×31cm)  
新書版(19×32.5cm)

扇子ケース・扇子付(24×5cm)

“りんごの木”では、障害をもつ人たちが  
ひとつひとつ丁寧に縫製品や  
手織り品をつくり働いています。

りんごの木

HOT CRAFT SHOP

社会福祉法人 信貴福祉会  
りんごの木



〒581-0868  
大阪府八尾市西山本町4-15-2  
作業所: TEL/FAX (072) 993-4330  
ショップ: TEL (072) 997-1440  
営業時間: AM 10:00~PM 6:00  
定休日: 日曜日(臨時休業あり)



## これからの展示・企画ご案内

### - 展示 -

- ◎7月15日(木)～8月29日(日)  
「植田家に残る戦争資料展  
～戦時下の暮らし～」  
※「2010 写生作品展示」同時開催中
- ◎9月1日(水)～9月26日(日)  
「大和川付替え関連展示」
- ◎10月1日(金)～11月29日(月)  
「植田家と大坂画壇」

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

### - 企画 -

- ◎8月5日(木)「旧家で愉しむ食事会」
- ◎8月28日(土)ミニ講座「こどもガイド養成講座vol.1」
- ◎9月18日(土)講座「河内木綿の歴史～初級編～」  
講師：宮元正博(当施設学芸員)
- ◎10月17日(日)展示関連講演会「大坂画壇」(仮)  
講師：長谷洋一氏(関西大学文学部教授)
- ◎10月29日(金)コンサート「八尾の音楽家」(仮)  
演奏：安藤信行氏(八尾市在住チェリスト)

(詳しくはお問い合わせください)

### 8・9・10月の休館日のご案内 ※○印が休館日

8 August						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	○3	4	5	6	7
8	9	○10	11	12	13	14
15	16	○17	18	19	20	21
22	23	○24	25	26	27	28
29	30	○31				

9 September						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	○7	8	9	10	11
12	13	○14	15	16	17	18
19	20	○21	22	○23	○24	25
26	27	○28	○29	30		

10 October						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	○5	6	7	8	9
10	11	○12	○13	14	15	16
17	18	○19	20	21	22	23
24	25	○26	27	28	29	30
31						

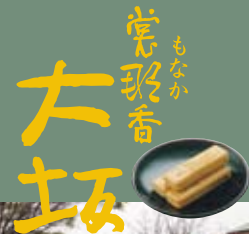
安中新田会所跡旧植田家住宅へは公共の交通機関をご利用ください

※当施設に駐車場はございません

- JR 大和路線八尾駅下車  
南出口より東へ徒歩 3 分
- 近鉄大阪線八尾駅から  
近鉄バス藤井寺駅前行  
JR 八尾駅前バス停下車  
南東へ徒歩 6 分
- 八尾市植松町 1-1-25
- 072-992-5311



JR八尾店は、旧植田家住宅  
より西へ約20Mご利用を  
お待ちしております。



- ◎本社・陌草園(山本南) Tel-072-923-0003
- ◎JR八尾店(淡川神社北) Tel-072-992-4649
- ◎西武店(八尾西武・地下1階) Tel-072-997-2650
- ◎東京・上野店(東京芸大前) Tel-03-3828-9826
- ◎東京・青山店(表参道) Tel-03-3400-8703

<http://www.tourindou100.jp>



# この冊子は エコ印刷・糊とじ製本で作られています。

※綴じの部分にホッチキスの金属が含まれていませんので、このまま再生紙として廃棄していただくことができます。

私たち株式会社シーズクリエイトは八尾市弓削町で高速輪転印刷工場を操業しています。この度同じ八尾の地縁から、NPO法人HICALI(ひかり)様と共に「旧植田家住宅だより」の冊子印刷のお手伝いをさせていただくことになりました。この良縁を機に「旧植田家住宅だより」は今回からエコ印刷である糊とじ製本の冊子に代わります。この冊子をよくご覧いただきますと、綴じ部分にはホッチキスの針がありません。これは印刷ラインの中で綴じのための糊付処理から製本までを一貫生産するという技術によって可能になったものです。水性糊を使用しているので環境にやさしく、リサイクルの時に紙と針金を分ける必要がないので、そのまま古紙回収に出すことができます。それに“本を読んでいるときに針金で指を突いてしまった”などという痛い経験はもうなくてすみます。エコ印刷といえば再生紙を使うものと連想される方も多いと思いますが、用紙以外にもエコへの取り組みはあります。この印刷には、大豆などの植物から抽出された自然に優しい材料が含まれるインクを使用しています。私たちは時代に先駆けて様々な小さな工夫を重ねながら、資源を大切に、環境に配慮した技術と印刷物の開発をこれからも続けていきたいと思っています。

私たちが携わっております情報印刷産業は、社会文化の発展にとっては切り離すことの出来ない存在であると自負しています。今回、「旧植田家住宅だより」を介して地域の活性化、文化・コミュニティ活動を深めることに、私たちが少しでもお役に立つことが出来たとすれば、まさに「印刷人冥利」に尽きるものであると、全社一同心から感謝いたしております。私たちシーズクリエイトはこれまでに培ってきた商業印刷技術に加え、時代の変革と共に求められる「感性豊かな情報表現」を創造していくことにこの上ない喜びを感じて、社員一同、これからも切磋琢磨していきたいと思っていますので今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

株式会社シーズクリエイト 代表取締役 社長 宮城正一



印刷出版物(チラシ・パンフレット)・モバイルコンテンツ・デジタルサイネージなどお気軽にご相談ください。  
大阪本社 TEL. 06-6969-6090 東京オフィス TEL. 03-3436-0211 京都支社 TEL. 075-812-3670  
神戸支社 TEL. 078-341-8221 八尾工場 住所 大阪府八尾市弓削町南1-18 TEL. 072-948-7772 FAX. 072-948-7735

株式会社シーズクリエイト